

01

Question



できることをもう少し広げたい

企業支援員：自分が成長していると感じますか？

Aさん：一つ一つやってる作業の意味や繋がりがわかるようになったと思います。あと虫とか平気になりました。

企業支援員：虫が怖かったんですか？

Aさん：好きじゃなかったです(笑)

企業支援員：朝の早起きなど自信になったのでは？

Aさん：基本的に朝は大丈夫なんですけど、この間一回寝坊してしまって、自信が揺らいでいます(笑)

企業支援員：今、仕事も含め目標はありますか？

Aさん：えーと。目標…。自分自身でできることを、もうちょっと広げていきたいなと思います。

企業支援員：色んな事にチャレンジしていこうと思えるような変化があったんですね。齋藤さんと仕事をして、感じたんですか？

Aさん：そうですね。

ここが本当に好きなのところ

企業支援員：来年、また声がかかれば働きたいですか？

Aさん：先のことなんですけど、自分としてはここが本当に好きなのところなので、出来るなら続けたいと思います。

企業支援員：その言葉が聞けてとても嬉しいです。紹介して良かったと思います。

03

Question

就農中のAさんにインタビューしました！
ひろさき生活・仕事応援センター通信

令和3年度 第4号

YOSHIO FARM

～従業員に寄り添う仕事の環境づくり～



いちごの数や形がいいとうれしい

企業支援員：齋藤さんはどんな方ですか？

Aさん：とても優しい方です。

企業支援員：作業風景を見せていただいたんですが、笑い声も時々聞こえてきて、いつもどんな話をしているんですか？

Aさん：いちごの話が多いと思います、天気の話とか、ニュースの話とか。

企業支援員：仕事では嬉しいこと、辛いことなどあると思うのですが、嬉しかった事を教えてください。

Aさん：いちごの数が多かったり、形が良いと嬉しいです。

企業支援員：失敗や辛い、悲しいことはありますか？

Aさん：失敗は寝坊をしたことです。悲しかったことは、思い切りいちごがナメクジに食べられた時です。今年は割と少ないと思います。

02

Question



01 POINT



経験を次のステップアップに

齋藤氏: ずっとうちの方で常用雇用できればいいんですが、難しくて、これを機にAさんが次のステップアップに進んで、駄目だったら戻ってほしいと思います。やってみてやっぱり合う合わないがありますよね。生活していくには常用雇用が大事ですし、Aさんの考えを尊重したいです。来ていただける限りはなるべく期間を延ばすなり、日数を増やしていければと考えています。作業状況で急な出勤日数の変更をお願いする言い方ではなくて、働き始める段階で、ある程度の期間を示すことができれば、働く側の人も入りやすいじゃないですか。無理な言い方をしないようにしています。



02 POINT

相手のグっとくる部分を探る

企業支援員: コミュニケーションで大事にしていることや、心がけていることがあれば教えてください。

齋藤氏: どこが相手の中でグっとくる場所なのか探ることが大事かなと思っています。あとはその方のグっとくる場所に私が気づければ、そこを中心に広げていくようにしています。仕事に対して始めて間もなく興味もまだ沸かない中で、押し付けるような話し方、コミュニケーションの取り方だと相手に伝わらないと思うので、共通のところで少しづつ心を開きかけるのではないかと。そのついでに相手の方が「これで…」など質問が出てくれば大丈夫だと思います。あとは少しずつ仕事の話をしていきます。



03 POINT

同じ苦勞をするなら違う視点で

齋藤氏: ほかの農家さんと人材の話をした時に従業員さんの事情とか色々話すのですが、お給料に対してここまで仕事してもらったという話になることがあります。他にもある程度のところまで育てて、もう任せてもいいかなと思った時に離職してしまったという話があります。そういったこともこれから会社としてどうするか考えないといけないので、給料を上げた、一服のお菓子を変えたなど言う方もいますが、私は違う気がします。難しいですね。色々な話を聞いているのに同じ結果になると、なにも進んでいないので、みなさんのそういうところを見てきて、同じ苦勞をするなら違う視点で見ないといけないと思います。

企業支援員: 齋藤さんが何気なく行っていることがとても大事なことだと感じます。人材不足や定着に悩んでいる企業の改善のキッカケや、ヒントになるのではないかと思います。お忙しい中、取材をさせていただきありがとうございました!

Thank you
very much!

人材に関するご相談、見学・就労体験など
お気軽にご連絡ください!

【ひろさき生活・仕事応援センター】

0172-36-3776(齋藤・宮本)